

平成 29 年度 病虫害発生予察注意報第 1 号

平成 29 年 10 月 3 日
静岡県病虫害防除所長

病虫害名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）
対象作物：かんきつ、かき、キウイフルーツ等

1 注意報の内容

- (1) 発生が予想される地域： 県内全域
- (2) 発生が予想される時期： 10 月
- (3) 発生程度： 多い
- (4) 防除時期： 10 月

2 注意報発表の根拠

- (1) 繁殖場所であるスギ・ヒノキ林（図 1）において 9 月以降の新成虫の発生量が多く、カメムシ叩き落とし調査（9 月）では、果樹カメムシ類の平均寄生数は 9.3 頭（平年 2.8 頭）と平年の 3.3 倍であった。地域別では東部 4.4 頭、中部 4.0 頭、西部 13.6 頭と特に西部地域で発生が多かった（表 1）。
- (2) 果樹カメムシ類の好適な餌であるヒノキ毬果（種子）において、カメムシの吸汁痕が毬果 1 個あたり 20 個を超えると、スギ・ヒノキ林から果樹園へ飛来する（図 1）。9 月中旬のヒノキ毬果におけるカメムシの平均吸汁痕数は 14.0 個であった。地域別では東部 12.7 個、中部 12.8 個、西部 15.7 個で、西部地域の 2 地点で 20 個を超えていた（表 1）。
- (3) チャバネアオカメムシの予察灯誘殺数は、磐田市敷地では平年の約 10 倍（9 月第 5 半旬）であった。ツヤアオカメムシの予察灯誘殺数では、磐田市敷地で平年の約 14 倍、磐田市富丘で約 15 倍であった（図 2）。フェロモントラップでは、浜松市北区三ヶ日町（9 月第 5 半旬）でチャバネアオカメムシが平年の約 6 倍であった（図表省略）。

3 防除方法

- (1) カメムシ類の飛来に注意し、ほ場で発生を確認したら直ちに薬剤防除を行う。成虫の移動範囲は広いので、地域での一斉防除が効果的である。スギ、ヒノキ林の隣接地域（特に中山間地）や台風通過後の園地では急激に発生が増加する場合がありますので特に注意する。
- (2) 農薬による防除については、病虫害防除所ホームページ（<http://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/boujo/boujo.html>）に掲載している病虫害防除基準を参照する。
- (3) 今後の発生状況については、病虫害防除所ホームページで提供している予察灯・フェロモントラップへの誘殺消長を参考にする。
- (4) 10 月末でカメムシの発生は終息すると思われるが、最高気温が 20 度を超える場合 11 月でも発生することがあるので注意する。
- (5) 不明な点については、病虫害防除所、農林技術研究所果樹研究センター、または最寄りの農林事務所、農協等に問い合わせる。



図1 果樹カメムシ類の7～10月の生態

表1 スギ・ヒノキにおける果樹カメムシ類の寄生数及びヒノキ毬果の吸汁痕数（9月）

	チャバネアオカメムシ		ツヤアオカメムシ		クサギカメムシ		合計（10結果枝当たり）			ヒノキ毬果の吸汁痕数（1毬果当たり）
	成虫数	幼虫数	成虫数	幼虫数	成虫数	幼虫数	成虫数	幼虫数	成幼虫数	
東部	3.0	1.0	0.4	0.0	0.0	0.0	3.4	1.0	4.4	12.7
中部	2.0	0.4	0.8	0.0	0.8	0.0	3.6	0.4	4.0	12.8
西部	6.8	1.2	5.3	0.0	0.4	0.0	12.5	1.2	13.6	15.7
県平均	5.0	1.0	3.0	0.0	0.4	0.0	8.3	1.0	9.3	14.0
平年値	1.8	0.4	0.3	0.1	0.2	0.0	2.3	0.5	2.8	11.2

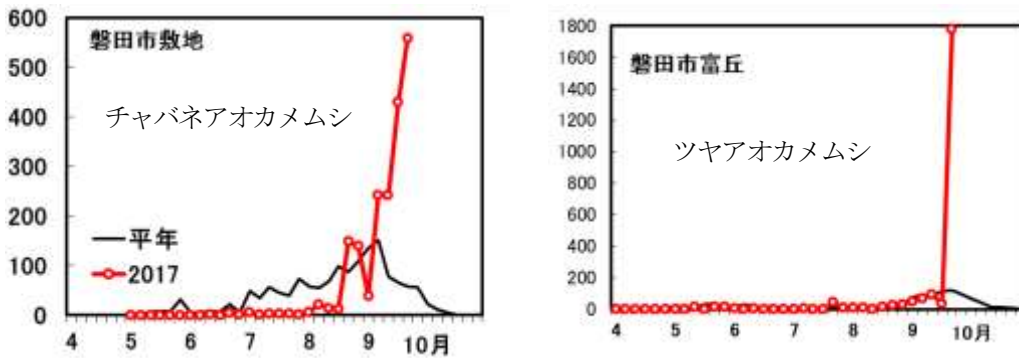


図2 予察灯による果樹カメムシ類の誘殺数



チャバネアオカメムシ成虫

ツヤアオカメムシ成虫

カメムシの吸汁により

カメムシの吸汁により

図3 主な果樹カメムシの成虫と果樹の被害果

変色したみかん

陥没したかき

問い合わせ先：静岡県病害虫防除所（TEL: 0538-36-1543）